

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



南アフリカ


















インドネシア



インド

市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/26 （1/19との比較）	1/26 （1/19との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.26% （+0.02）	88.22円 （▲0.44%）	+3.0% 2017年3Q	1.25%	CPIは市場予想通りも小売売上高は市場予想を下回る結果。NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉は膠着状態が続く、進展の兆しはあまり見られず。市場の円高傾向を受け、カナダドルは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	11月のGDP（国内総生産）や製造業PMIなどの発表を予定。28日までNAFTA再交渉第6回が開催されるも、特段進展はない模様。引き続き高水準の家計債務や原油価格の推移などに注意が必要。
	Aaa	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	8.93% （▲0.19）	34.47円 （▲0.59%）	+1.4% 2017年3Q	7.00%	地方裁判所（二審）は、ルラ元大統領に対して、収賄などの罪で有罪判決を下し、ルラ氏が10月の大統領選に出馬できなくなる可能性が浮上。経常収支は市場予想を下回り、レアルは対円で下落。国債利回りは低下。	製造業PMIや貿易収支などの発表を予定。引き続き財政改革や、テメル大統領の支持率などの政治リスクが債券・為替市場に影響を与えると予想しつつも、堅調な資源価格を受けて、底堅く推移すると予想。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A-	7.45% （▲0.05）	5.87円 （▲1.19%）	+1.5% 2017年3Q	7.25%	NAFTA再交渉の進展は特段なし。発表された小売売上高や貿易収支が市場予想を下回る結果となったことが嫌気され、ペソは対円で下落。国債利回りは低下。	NAFTA再交渉が難航していることや、米利上げ観測の高まりで経済の減速感が高まりつつある中、NAFTA再交渉の結果次第ではペソは一段と売られる可能性があるとする予想。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。













国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/26 （1/19との比較） 今後の見通し （※4）	1/26 （1/19との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.85% （▲0.02）	88.05円 （▲0.54%）	+2.8% 2017年3Q	1.50%	景気先行指数は前回分を上回る結果。米国が緊急輸入制限（セーフガード）を発動するとの発表を受け、貿易摩擦懸念が高まり、米ドル安となった流れを受け、豪ドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	CPIや住宅建設許可件数などの発表を予定。また、中国の製造業PMIにも注目。中銀が注視しているトリムCPIがインフレーターゲットの下限に到達するかに注目が集まるも、堅調な資源価格を背景に豪ドルは堅調な展開を予想。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.90% （▲0.07）	79.80円 （▲0.98%）	+2.7% 2017年3Q	1.75%	10-12月期のCPIは市場予想を下回る小幅の伸びにとどまり、利上げ予想が後退。パフォーマンス・サービス指数は高水準ながら前回比で低下。低いCPIを受けて、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	景気拡大の勢いがやや鈍る中でインフレ圧力も低いことが確認されたため、利上げタイミングは後ずれする算。貿易収支や消費者信頼感指数などの経済指標が発表されるが、金融市場に大きな影響は与えない見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.80% （+0.12）	14.13円 （+0.23%）	+3.2% 2017年3Q	0.50%	中銀は政策金利の据え置きを決定。12月時点の見通しから大きな変化はなく、依然緩和的な政策が必要との見解を示しつつも、景気拡大が続くとの見方を示唆。ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。	景気拡大のペースが利上げ開始時期を探る上で重要。小売売上高は大幅に増加した前月の反動が見込まれるものの、均して拡大基調が続いていることが確認されるかが注目。また、製造業PMIなどの発表も予定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/26 (1/19との比較) 今後の見通し (※4)	1/26 (1/19との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	7.73% (▲0.06)	9.17円 (+0.84%)	+0.8% 2017年3Q	6.75%	CPIは市場予想通りの結果。IMF（国際通貨基金）は同国の経済成長率の見通しを下方修正。与党党首に選出された副大統領による同国変革の訴えなどが好感され、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	製造業PMIなどの発表を予定。短期では不安定な政治体制を背景に変動率の高い展開が想定され、長期では財政難など山積みした課題が同国資産価格への下押し圧力となると想定。
	Baa3	 金利上昇	 景気鈍化	 利下げ局面			
インドネシア 	BBB-	5.72% (+0.00%)	0.82円 (▲1.91%)	+5.1% 2017年3Q	4.25%	主要な経済指標の発表がない中、足元の価格上昇から、債券への利益確定売りの動きが散見され、海外投資家の債券売買フローも純流出。市場の円高傾向を受けて、ルピアは対円で下落。国債利回りはほぼ変わらず。	製造業PMIやCPIなどの発表を予定。原油価格などが堅調に推移する中、インフレ上昇率が加速すれば、国債利回りは上昇しやすい地合いを予想。また、30日の国債入札結果にも注目。
	Baa3	 金利低下	 景気拡大	 利下げ局面			
インド 	BBB-	7.30% (▲0.01)	1.71円 (▲1.53%)	+6.3% 2017年3Q	6.00%	主な経済指標の発表はなし。モディ首相はダボス会議で、インドが世界経済の推進力となりうると示唆。国債入札額が予定より少額となったことを受けて、国債利回りは小幅低下。ルピアは対円で下落。	予算案の提出が予定されているが、財政赤字の減少と経済成長を支えることができる予算案が提出されれば、ルピアは底堅い展開を予想。引き続き原油価格などにも注目。
	Baa2	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面			

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

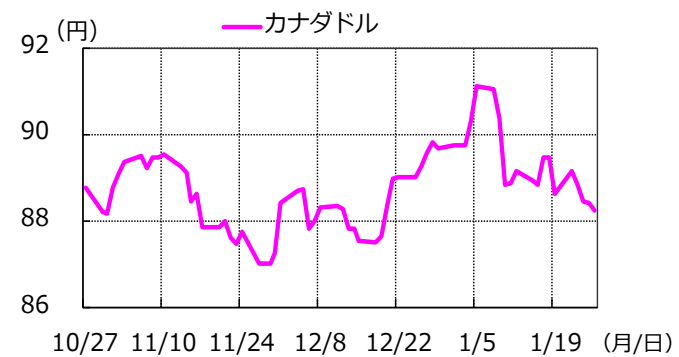
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

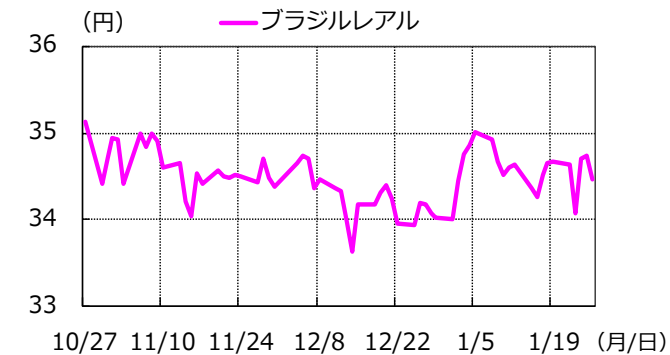
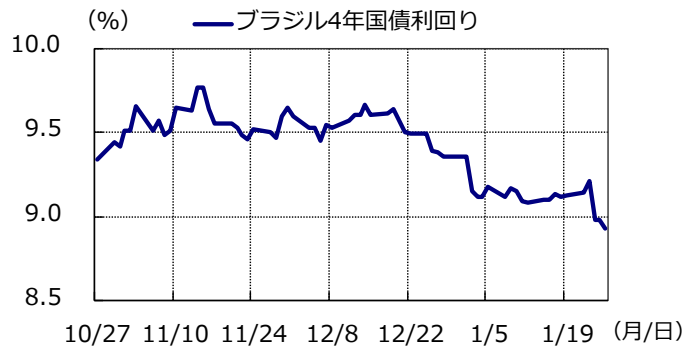
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/27～2018/1/26

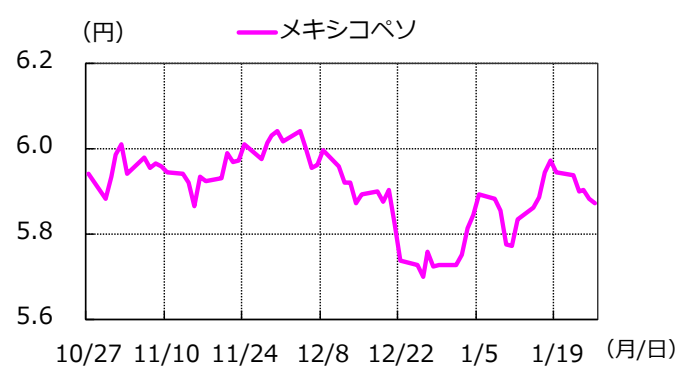
カナダ



ブラジル



メキシコ

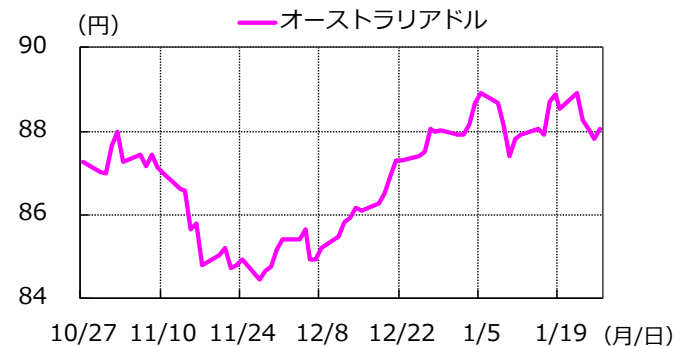
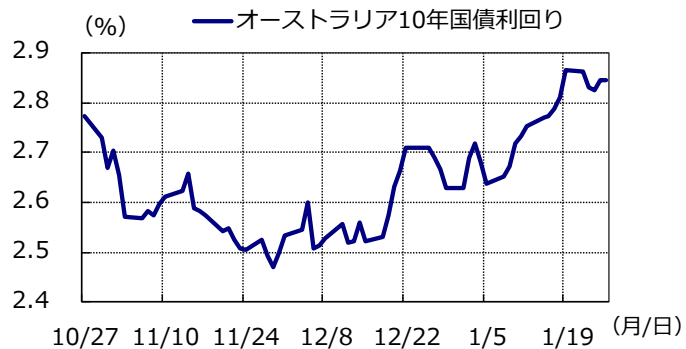


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

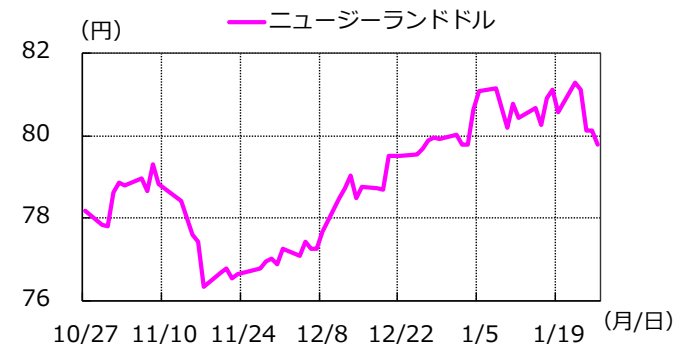
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/27～2018/1/26

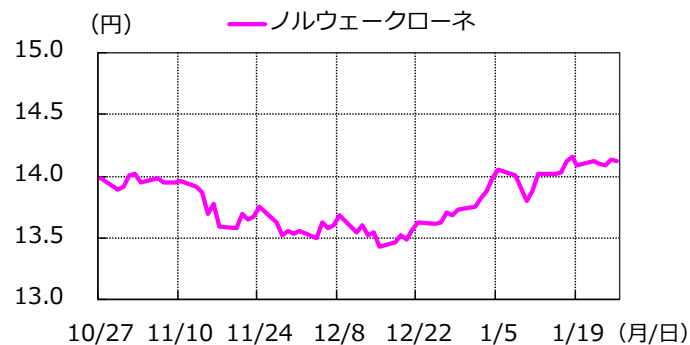
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

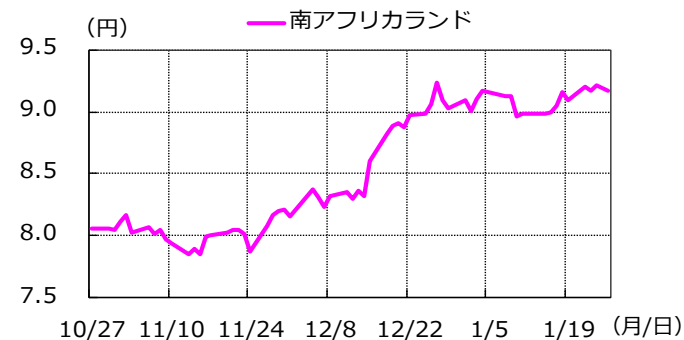


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

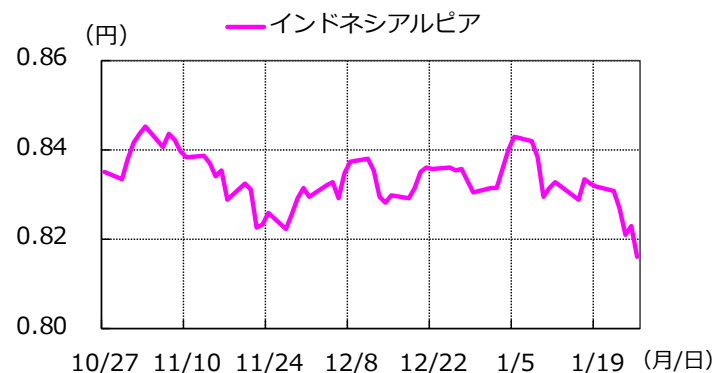
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/27～2018/1/26

南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。